

安倍郡府中に有り、駿府在番代々記云、寶永四年三月十日、御徒目付伊丹伊右衛門、大平彌五兵衛、御小人目付二葉源六郎、林田清四郎、豊田勝藏、犬御用として到著、同十五日發足、犬百餘疋、江戸に牽云々、是府中及近郷の犬成べし、

〔憲の須佐美^三〕武州口口郡八幡村成田無二左衛門と云者、夜盜を業として、老後まで健に有ける、寶永のころ、江戸にて犬を殺せる者走り來り、頼みければ、大切たる刀を取替遣し、塙のかたへ忍ばせけるを、搜出されて刑せらる、無二左衛門並塙ともに隠し置、殊に刀を取かへ遣したる科にて梟首されける、

憎犬

〔古事談^一王道后宮〕後三條院ハ犬ヲニクマセ給テ、内裏ニヤセイヌノキタナゲナルガアリケルヲ、取弃ヨト藏人ニ被仰タリケレバ、犬ヲ令惡給トテ、京中ヨリハジメテ諸國マデ犬ヲコロシケリ、帝キコシメシテ被驚仰ケレバ、又殺サズト云々、

闘犬

〔太平記^五〕相摸入道弄田樂并闘犬事

相摸入道^{○北條高時}懸ル妖怪ニモ不驚、増々奇物ヲ愛スル事止時ナシ、或時庭前ニ犬共集テ、嚙合ヒケルヲ見テ、此禪門面白キ事ニ思テ、是ヲ愛スル事骨髓ニ入レリ、則諸國へ相觸テ、或ハ正稅官物ニ募リテ犬ヲ尋、或ハ權門高家ニ仰テ、是ヲ求ケル間、國々ノ守護國司所々ノ一族大名、十匹二十匹飼立テ、鎌倉へ引進ス、是ヲ飼ニ、魚鳥ヲ以テシ、是ヲ維グニ、金銀ヲ鏝ム、其弊甚多シ、輿ニノセテ路次ヲ過ル日ハ、道ヲ急グ行人モ馬ヨリ下テ、是ニ跪キ、農ヲ勤ル里民モ、夫ニ被執テ、是ヲ舁、如此賞翫不輕ケレバ、肉ニ飽キ、錦ヲ著タル奇犬、鎌倉中ニ充滿シテ、四五千匹ニ及ベリ、月ニ十二度犬合セノ日トテ被定シカバ、一族、大名御内、外様ノ人々、或ハ堂上ニ坐ヲ列ネ、或ハ庭前ニ膝ヲ屈シテ見物ス、于時兩陣ノ犬共ヲ一二百匹宛放シ合セタリケレバ、入違ヒ追合テ、上ニ成下ニ成、噉合聲天ヲ響シ地ヲ動ス、心ナキ人ハ是ヲ見テ、アラ面白ヤ、只戰ニ雌雄ヲ決スルニ不異ト思ヒ、智ア